

「 イングリッシュキャンプ 」

～赤城の森での国内留学～

1. 趣旨

外国人講師と一緒に楽しみながら、英語をコミュニケーションの手段として用いる。そして、野外炊事やオリエンテーションなどの活動を体験することを通して、英語を聞いたり話したりすることに自信をもち、英語への関心をもてるようにする。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成30年8月12日（日）～14日（火）

(2) 参加者

①参加対象 中学校1、2年生

②参加人数 32名（応募総数36名）

群馬県前橋市19名、高崎市1名、渋川市1名、太田市1名、安中市1名、
吉岡町4名、桐生市1名、東京都立川市1名、石川県金沢市1名、
茨城県古河市1名

3. 企画運営のポイント

体験活動を中心に据え、積極的に英語を用いてコミュニケーションを行いたいと思う場面を意図的に設定し、楽しみながら英語に親しみ、英語を使ってコミュニケーションをしてみたいと思わせるプログラム構成にする。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
8月 12日 (日)		開会式 アイスブレイク スピーキング 英語を使いながらカレーを作ろう	ファンタイム (バルーンリレー、英語の曲によるダンス)
8月 13日 (月)	ウォームアップ スピーキング リスニング	英語を使って、オリエンテーリング スピーキング 発表の準備をしよう (日本の文化を紹介しよう)	発表の準備をしよう (日本の文化を紹介しよう)
8月 14日 (火)	ウォームアップ 日本の文化を紹介しよう (発表) 閉会式		

5. 主な活動内容



英語を使っでのカレーライスづくり



英語で話しながらのオリエンテーリング



プレゼンテーション（日本の文化）

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 2 2 名 (6 9 %) やや満足 1 0 名 (3 1 %) やや不満 0 名 不満 0 名

(2) 参加者の声

- ・全て英語を使うので、英語に慣れて言葉がすらすら出てくるようになった。
- ・日本文化の発表準備では、新しい英単語を発見したり、言葉を選んだりすることでより英語への関心が高まりました。また、班での活動やチームワークを高めることができました。
- ・発表準備の時に講師と一緒に文章を考えて、英語で会話してまだまだ聞き取れないことがたくさんあったので、もっと勉強したい。
- ・スピーキングとリスニングは基本的な英会話を覚えて、発表ではスピーキングとリスニングもできる点が役に立った。
- ・オリエンテーリングではチームの人と協力して教え合って活動することで、チームの絆をつくり上げることができた。

(3) 成果

- ① 3 2 名の定員に対して、3 6 名の応募があり、3 2 名が参加した。参加者の自由記述に「全て英語を使うので、英語に慣れて言葉がすらすら出てくるようになった。」と書かれていることから、英語を使う機会を意図的に設定することで、基本的な英会話を覚えることができ、英語に慣れることができた。
- ② 「講師と一緒に文章を考えて、英語で会話してまだまだ聞き取れないことがたくさんあったので、もっと勉強したい。」と書かれていることから、参加者自身ができないと感じたことであっても、それが学習意欲につながり、英語への興味を高めることができた。
- ③ 野外炊事やオリエンテーリングなどの体験活動を取り入れたことは、チームで英語を教え合うことにつながり、チームの絆を作り上げることができたと考えられる。

(4) 課題

「日本の文化を紹介しよう」というテーマでプレゼンテーションを行った。参加者からは、「もうちょっと時間（プレゼンテーションの）が欲しい。」や「難しかった。」と自由記述に書かれていたことから、参加者によっては、このテーマは難易度がやや高かったと考えられる。

初めて実施したこともあったが、参加者の満足度が 8 0 % に届かなかったことについて次のことが考えられる。プレゼンテーションの活動が「楽しい」だけではなく、難しいことにも挑戦し、乗り越えていくことも大切であることを活動の最初に参加者に伝えなかったことやスピーキングやリスニングの活動に対して、学校の授業と近いものと認識し、参加者の想定していた活動との相違があったことである。

担当 企画指導専門職 横山 直樹